



# 麻布幼稚園だより

令和5年10月号  
港区立麻布幼稚園  
園長 酒井 正美

例年にない暑さが続いた9月でした。朝晩にやっと秋の涼しさが感じられるようになりました。日中の暑さが和らいでくるのに合わせ、戸外遊びを積極的にしていきたいと思います。子供たちはスポーツデーに向けて取り組む中で、互いの学年のリズムや競技を応援してきました。特に、年長きく組の「リレー」と「ソーラン節」は憧れの的です。きっと、スポーツデーの後は、きく組のお兄さん、お姉さんに教えてもらい、繰り返し楽しむことでしょう。



今年の仲秋の名月は満月とのことで、美しい月を楽しむご家庭でも多いのではないのでしょうか。月が美しい季節、月の満ち欠けの様子やお月見などを楽しんでいきたいですね。

幼稚園の園庭につくったささやかなビオトープには、早速カエルがやってきて、どうやら住み着いたようです。トンボもいつもより多くよく飛んでくるように思います。職員室前の植え込みにつくった「虫たちのおうち」(雑草や木の枝を束ねた粗朶置いた場所)にも、いろいろな虫が来ています。

柿は、少しずつ色づき始めています。秋が深まっていく季節、子供たちと園庭の小さな秋を見付け、楽しんでいきたいと思います。

幼稚園では、子供たちに毎日元気に登園し、楽しくたくさん遊んでほしいと願っています。「元気に」「楽しく」というのは、一人ひとりが自分だけ楽しく、好き勝手にやりたい放題なことをするということではもちろんありません。

幼稚園教育において育む内容が国から示されている「幼稚園教育要領」の中に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一つとして、「道徳性・規範意識の芽生え」という項目があります。

- 他の幼児と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがあることが分かり、考えながら行動するようになっていく。
- 相手の気持ちに共感したり、相手の視点から自分の行動を振り返ったりして、考えながら行動する姿が見られるようになる。
- きまりを守る必要性が分かり、友達と一緒に心地よく生活したり、より遊びを楽しくしたりするために、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

幼児には難しいことのように感じられるかもしれませんが、幼稚園の遊びや生活の中には、これらの育ちにつながる出来事が日々繰り返されています。

「自分が使った物は自分で片付ける」という毎日の片付けは、自分のしたことに責任をもつことにつながります。体育館に行く時などは「勉強をしている時だから静かに(忍者さんで)行こうね」と場や状況に合わせた行動ができるようにします。遊びの中では、思いが高じて相手を叩いてしまうといったことも起こります。ですが、どんな思いや理由があっても相手を叩いてはいけません。叩いてしまったことは振り返って謝り、どうすればよかったのかを、お互いに考えられるようにしていきます。

日々の「小さい」ことの積み重ねですが、それはしっかりと子供たちの成長につながっていきます。「自分の物は自分で持つ」「自分が使った物は自分で片付ける」「相手に嫌な思いをさせてしまったら謝る」など、当たり前のことを当たり前にできるようにしてあげること、してはいけないことをしてしまった時には、そのまま流れはぐらかされることなく、側にいる大人がその時々しっかりと伝え、自分の行動を振り返り考えられるようにしてあげることが、「道徳性・規範意識の芽生え」につながります。

スポーツデーを経験して、また一回り大きくなっていく子供たちの成長を、幼稚園と家庭でしっかりと支えていきましょう。